米レストランのメニュー価格、10月に0.5%上昇 2025年12月以来の大幅な伸び

メニュー価格の上昇が食料品を上回り、外食需要を圧迫しかねない価格差が拡大

2026年11月11日（水）



全米レストラン協会が11月10日火曜日に公表した分析によると、米国のレストランのメニュー価格は10月に0.5%上昇し、2025年12月以来最大の月間上昇率となった。外食と家庭での食事の価格差が拡大し、レストラン需要への圧力が強まっている。

同協会によると、10月の上昇率は、9月の前月比0.2%から明確に加速した。2026年の最初の10カ月間、メニュー価格は月平均0.3%上昇した。過去13カ月では4.0%上昇している。

これに対し、食料品価格の上昇はより緩やかだった。同協会によると、家庭内で消費する食品の価格は、9月に0.1%上昇した後、10月には0.3%上昇した。2026年に入ってからの月平均上昇率は0.2%

で、過去13カ月では2.2％上昇しており、レストランのメニュー価格の上昇率のおよそ半分にとどまった。

この価格差は、消費者の支出配分を変える可能性があるため、レストラン業界にとって重要だ。同協会は、家庭内で消費する食品と外食のインフレ率の差が広がれば、家計が外食費と自炊費用を比較するなかで、レストランの来店客数に逆風となる可能性があると述べた。

価格上昇は、限定サービス型チェーンやその他のクイックサービス店よりも、フルサービスレストランで大きかった。フルサービス店のメニュー価格は9月に0.3％上昇した後、10月には0.7％上昇した。限定サービス店の価格は、前月の0.2％上昇に続き、10月に0.4％上昇した。2026年の月平均上昇率は両セグメントとも0.3％だったが、過去13カ月の上昇率はフルサービス店が4.4％と、限定サービス店の3.6％を上回った。

外食関連のより広いカテゴリーでは、その他の分野の動きはまちまちだった。自動販売機と移動販売の価格は10月に0.5％上昇した一方、従業員向け施設や学校、その他の外食関連施設の価格は前月から変わらなかった。同協会は、これらのカテゴリーでは月ごとの変動が大きくなる場合があると指摘した。2025年9月以降、従業員向け施設と学校の価格は3.7％上昇し、自動販売機と移動販売の価格は2.5％上昇した。「その他の外食」という広いカテゴリーでは、過去13カ月で4.1％上昇した。

地域別では、10月のメニュー価格の月間上昇率が最も高かったのは中西部で、0.7％だった。西部が0.6％、南部が0.5％、北東部が0.2％と続いた。同協会によると、過去13カ月の上昇率も中西部が5.1％で最も高く、西部が3.9％、北東部が3.7％、南部が3.6％だった。

レストラン価格のデータが公表されるなか、10月も消費者物価全体の上昇は続いた。同協会によると、消費者物価全体は10月に0.4％上昇した。9月の0.6％からは鈍化したものの、堅調な上昇ペースを維持した。エネルギー価格が引き続き大きな押し上げ要因となり、ガソリン価格は10月に1.0％、過去3カ月で14.5％、前年同月比で37.4％上昇した。食品全体の価格も、8月に横ばいとなった後、10月には0.5％上昇した。

政府機関の閉鎖中に2025年10月のインフレデータが得られなかったため、2026年10月の消費者物価指数の前年同月比は算出できないと、同協会は述べた。その代わり、消費者物価は過去3カ月で年率換算5.7％上昇し、過去13カ月では4.1％上昇したとした。食品とエネルギーを除くコア消費者物価は、3カ月連続で0.3％上昇し、過去13カ月では2.9％上昇した。

同協会によると、10月のインフレを押し上げた主な要因には、輸送サービス、家庭用家具・備品、医療関連商品が含まれた。一方、中古車とトラックの価格は1.2％下落した。また、10月のインフレ率は予想を上回っており、9月の利上げに続き、12月7～8日の会合で米連邦準備制度理事会（FRB）が再び利上げするとの見方を強めた可能性が高いと述べた。

新たなデータは、レストラン経営者が難しいバランスを迫られていることを示している。メニュー価格は食料品価格を上回るペースで上昇しており、運営コストの増加を補うために値上げが必要となる一方、この価格差によって消費者が外食を控える可能性もある。特に、インフレ全般と燃料費が引き続き家計を圧迫するなか、その懸念は強まる。